



行政による開発の見直しを求める"Save the 下北沢"。本当に必要とされる街とは？

"シモキタ"に見る日本の道路事情

若者の街、演劇の街として有名な東京・下北沢。1500軒に及ぶ個性的な商店と住宅が複雑に入り組み、あらゆる文化が混然とした街並み。東京が再開発され、似た街が増えていく中で、下北沢だけは変わらない。そう思っていた人は多かった。

「下北沢再開発の話を知ると、誰もが驚きます」。そう語るのは、'03年に設立されたNPO法人"Save the 下北沢"共同代表の金子賢三さん。行政による再開発計画の問題点や、活動の中で知った日本の道路事情を冷静に分析してくれた。

道が狭くて車が入れないため歩行者優先の街となっている下北沢に、再開発計画が持ち上がったのは'03年。下北沢を通る小田急線の地下化に伴い、新たに道幅26mの補助54号線を下北沢駅北口に建設するという。また、区画街路10号線という駅前ロータリーを作り、巨大な駅ビルを誘致する計画だ。

「再開発が実行されると、北口周辺の商店街は立ち退きを迫られ、歩行者でにぎわう

街は分断されます。小さな商店は駅ビルのテナント料金がなくて払えません。私たちはこの計画の不備を証明して、合理的な代替案を提出しています」

世田谷区は再開発を行う理由に、交通、防災、住民の希望の3点を挙げる。だが金子さんは、交通量の分析を専門家に依頼し、補助54号線が国土交通省が定める道路計画基準よりはるかに低い投資効果しか得られないことを証明した。防災の問題も、小田急線の跡地を防災に利用することでクリアできるという。そして、街の様相を180度変えるこの計画が、本当に住民の支持を得ているのか。世田谷区は一部の住民と懇親会を開き、合意を得たと説明する。だが、計画への怒りの声は後を絶たない。

「生まれ育った街を守ろうと活動を始めましたが、次第に『行政には計画を中止する制度がない』と気づきました。これは下北沢だけではなく日本全体の問題です。真に住民の意志をくんだ公共事業のモデルを、ここから

全国に発信したいと思っています」

'06年11月、下北沢再開発計画は東京都に正式に認可された。しかし、"Save the 下北沢"のwebサイトには、住民をはじめ現在の下北沢を愛する人々の署名やメッセージが続々と書き込まれている。一体どちらが、本当に必要とされる街なのだろう。



←リリー・フランキー氏デザインのTシャツは1枚2500円。売り上げは"Save the 下北沢"の活動資金となる



←↑'06年3月21日に行われた「まもれシモキタ!パレード」。下北沢の住民、下北沢を拠点に活動する若いアーティストらが、再開発反対をアピールした

■NPO法人 Save the 下北沢
<http://www.stsk.net/>